

# 眉山と鎧塚

- 眉山は、頼山陽が西栗野村に滞在した際に「眉を引いたように優美な山」と命名したもの。まさに秀麗。
- 鎧塚古墳は、眉山山頂 231m(標高差約 207m)にある全長 82m の前方後円墳。琴塚古墳より古い 4 世紀後半に築造。

【発行:令和 8 年 3 月 15 日 / 企画編集:岩野田北まちづくりサロン内(仮称)眉山と鎧塚古墳を学ぶ会】

壬申の乱(672 年)の際に活躍した美濃国の有力豪族の牟義都氏に、鉄の武器の供給を担ったと考えられる岩野田地域(岐阜市史通史編古代 P227)。現在の地域にも、それを想起させてくれる形跡が見られます。

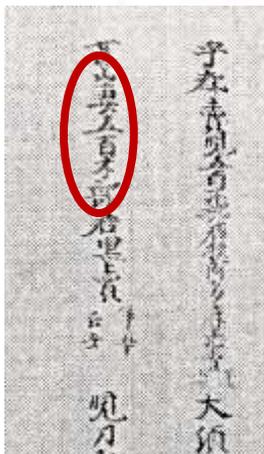
## 鉄器を産した里の証……



▲粟野台の造成前の丘陵【昭和 63 年】



▲鍛冶の神様を祭神とする南宮神社。創建年は不明だが、郡上市の南宮神社は創建が 717 年



▲702 年の戸籍によれば、地域周辺に、鍛冶と目される五百木部が 87 人居住



- ①三井田里戸籍に、鍛冶を担う五百木部の名が見える。
- ②鍛冶の神様のカナヤマヒコノミコトを祀る南宮神社が所在している。
- ③鍛冶にまつわる字名「鐘鑄」。円筒埴輪、鉄器製造が行われたか。
- ④鉄製造技術を持つ渡来人に関りのある字名「朝鮮山」。木炭を製造する入会地か。
- ⑤鳥羽川の水運で③と④をつないだか。

江戸時代の西栗野村の地図 (岩野田小 100 周年記念誌より)



▲宅地化されていない。当時の浸水対策は土を盛って鍛冶場を築いたか?(発掘しても鍛冶跡はない?)



YOROI あやか

鳥羽川

かねと 鐘鑄

鳥羽川

# 原材料の鉄鉱石は、金生山から採掘?!



MAYU りん

## ●国造同士が連携していた…?!

前 4~5 号で見てきたように、美濃国の三人の国造のうち、岩野田地域を支配領域とした人物の線引きは困難です。しかし、牟義都の一族は、717 年に岩野田を含む方県郡に居住していることが分かっています(「続日本紀」)。

一方、三人は敵対し合い支配領域を争っていたというよりは、共存関係にあったのではないのでしょうか。それは、  
①三野前国造と牟義都国造は天皇家とも繋がる血縁関係にあること

②三野後国造の支配領域である各務郡の有力豪族である村国氏は、壬申の乱で牟義都氏とともに活躍したこと(村国氏と、岩野田地域周辺に居住した五百木部との婚姻関係も三井田里戸籍に見える)からです。

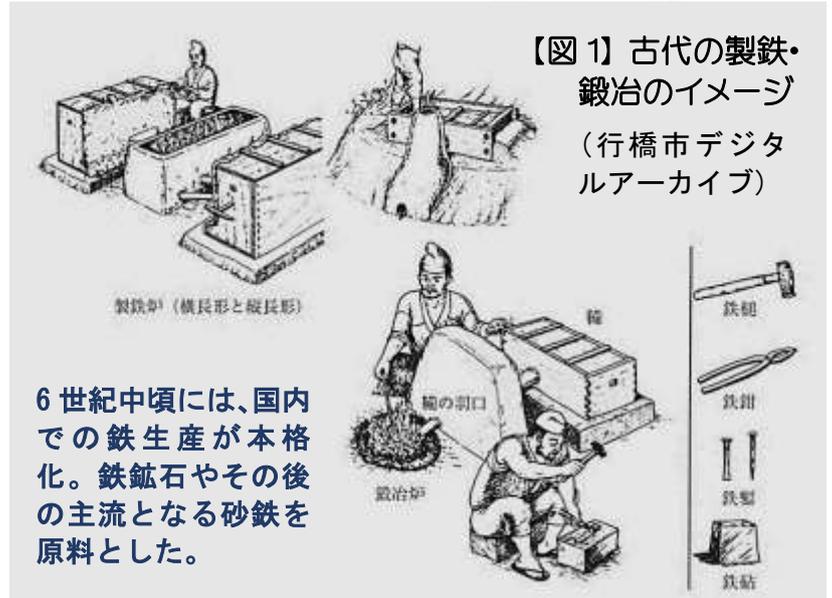
その結果、牟義都氏は

①三野前国造の領域にある金生山の鉄鉱石ないしは鉄を入手できた

②五百木部は、渡来系技術集団を抱え、鉄器生産を担った物部氏の系統である三野後国造と同祖(「新撰姓氏録考証」)で、彼らの技術を活用できたのではないのでしょうか。

なお、牟義都氏の支配領域と考えられる加茂郡の戸籍(半布里戸籍)には、鉱山開発から鉄生成まで行った秦氏の名が戸籍に見えます。また、牟義都氏には、同族の守氏が鉄器製造技術を有していたとする見方もあります。つまり、牟義都氏は、独自に鉄器等の製造技術を得ていたとも考えられます。

美濃国の「鉄を制した三人の国造」は、鉄器製造を通じて互いに交流し、ヤマト王権と緊密な関係を築き上げ、それぞれの領域あるいは美濃国全体として、ともに強大な勢力を誇っていたのではないのでしょうか。



▲金生山の赤鉄鉱(左)と山中で採集された鉄滓  
(大垣市金生山化石館化石館だより NO. 40)

## 鉄製武器



眉山南麓の岩崎古墳群(6~7世紀)、小坂山南麓の粟野古墳群(7世紀)、済法寺南の西粟野古墳群(7世紀前半)から直刀が出土。一方、5~6世紀の粟野丸山の岩野田古墳群からは、武器や鉄器は出土していない。

◀中八幡古墳(池田町)からは、5世紀中頃の馬具、武器(鉄刀、鉄剣、鉄鏃(やじり)など)が出土。馬具は、朝鮮半島南東部からの輸入品とされる。(池田町 HP)



▲埼玉県稲荷山古墳(5~6世紀初め)から出土の鉄剣。銘文に辛亥とあり、471年に我が国で鍛造されたと判明。6年余をかけて平成25年に復元。「現存最古の日本の文章」とされる115文字の銘文が剣に刻まれている。5世紀に我が国独自の鍛冶技術で、文字を刻むほどの高度な鉄剣が製作されていた。1983年に国宝に指定された。さきたま史跡の博物館収蔵保管。